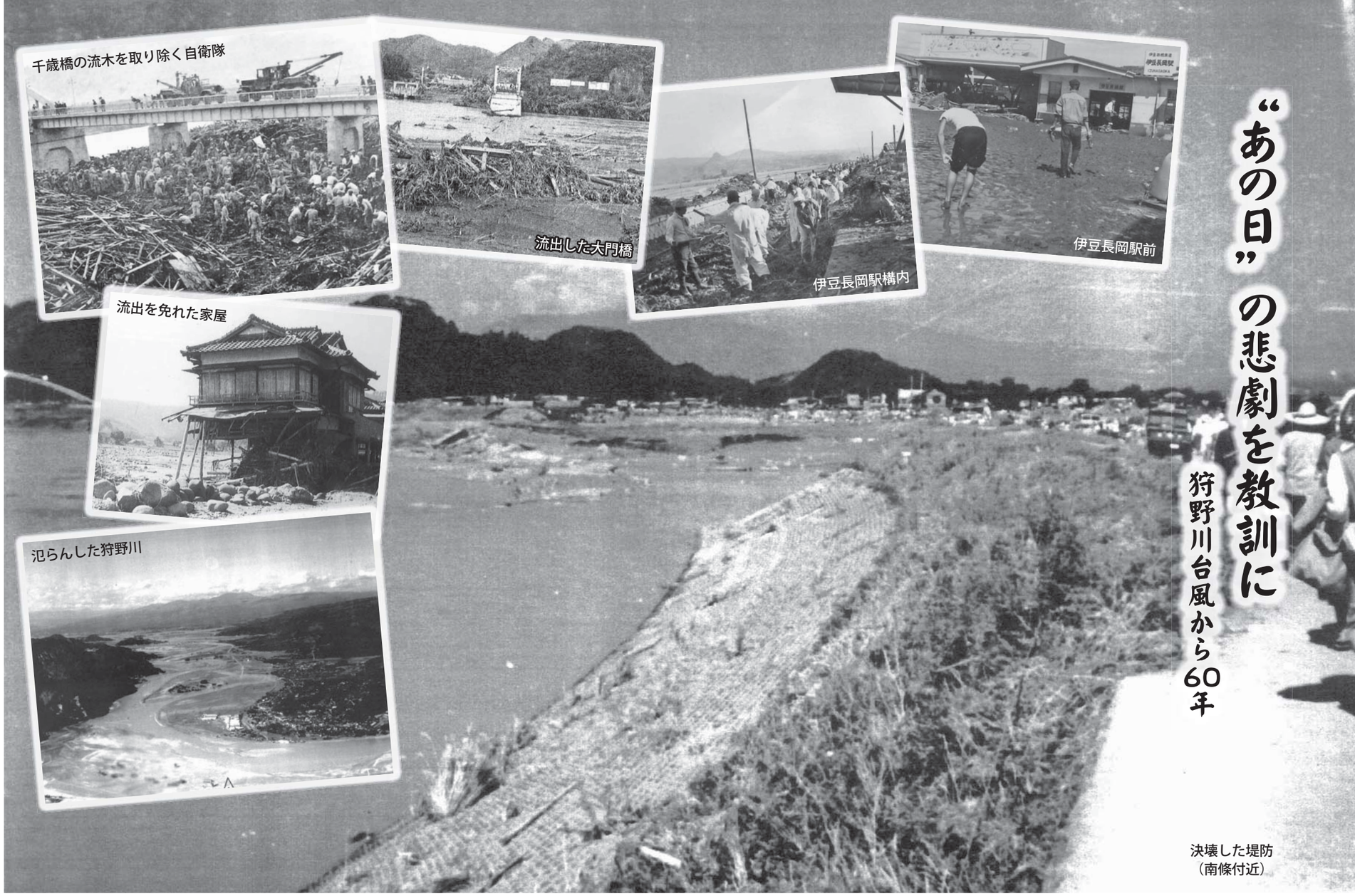
“あの日”の悲劇を教訓に

狩野川台風から60年



決壊した堤防
（南條付近）

資料／伊豆の国市郷土資料館所蔵

未曽有の大災害「狩野川台風」

今から60年前の昭和33年（1958）9月26日、最大風速75m／秒、中心気圧880ミリバール（ヘクトパスカル）というかつてない規模の台風が伊豆半島に直撃し、その猛威を振るいました。これが、後に「狩野川台風」と呼ばれる昭和33年台風22号（国際名：Ida（アイダ））です。

その被害は甚大で、現・伊豆の国市神島、中島、白山堂、南條、中條、南江間、原木を含む狩野川流域のいたるところで堤防が決壊し、一夜にして狩野川流域の集落はあっという間に濁流にのみ込まれました。

狩野川台風の規模	
最大風速	75 m／秒
最低中心気圧	880 ミリバール（ヘクトパスカル）
連続雨量（伊豆市天城湯ヶ島）	739 mm

狩野川台風の被害状況	
死者・行方不明者	約 930 人（狩野川流域：853 人、現・伊豆の国市：290 人）
全壊・流出家屋	約 1,300 戸
半壊家屋	約 1,000 戸
床下・床上浸水	約 15,000 戸

「悲劇」を「教訓」に

狩野川台風から60年が経過し、「あの日」を経験していない人たちが多くなってきた今日、「悲劇」の記憶は薄れつつあります。狩野川放水路が整備され、堤防が高く整備された狩野川が、あたり前の風景になりつつあります。

しかし忘れてはなりません。水害は絶対に起こらないという保障はないということを。過去に起こった悲劇を。

狩野川流域に住む私たちは、狩野川台風の「悲劇」を忘れずに後世に語り継ぎ、未来への「教訓」としなければなりません。

水害を防ぐために

狩野川放水路

狩野川流域の水害防止を目的として、昭和40年（1965）7月に完成しました。最大で2,000㎥／秒もの水を、海に流すことができ、狩野川の氾らんを防ぎます。

また、本年4月17日に認定された「伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク」のジオポイントの1つでもあります。

本年8月6日、石井啓一国土交通大臣が視察に訪れました。（写真一番右）

狩野川連合総合水防演習・広域連携防災訓練

狩野川流域内の水害を想定し、水防技能の習熟と防災関係機関の相互連携などを目的として毎年実施しています。土のうなどを用いた水防工法などを行っています。

狩野川台風60年シンポジウム
～狩野川台風の記憶を次世代につなぐ～

狩野川台風の悲劇を二度と繰り返さないため、世代間の「記憶をつなぎ」、流域内の「人々をつなぎ」、将来流域に住む人々の「未来の安全・安心へとつなぎ」、『強く』『しなやかな』地域をつくっていくための「狩野川台風60年シンポジウム」を開催します。

とき／9月29日（土）13：30～15：30
（受付12：30～）
ところ／アクシスかつらぎ　大ホール

問 国土交通省　沼津河川国道事務所
☎ 055-934-2009